

2025 参議院選挙を終えて

1955年以来初めて、衆・参両議院での与党過半数割れとなり、大きな転換期として歴史に刻まれる出来事になるでしょう。

前哨戦となった都議会議員選挙でも変化の兆しが見られましたが、既存の政党から新しい政党に支持が移って行ったこと、若い世代を中心にそれが顕著なことが見て取れました。

自民党の「企業献金」や「裏金」といった政治スタイルが受け入れられないのは明らかになりましたが、既存の野党はその批判の受け皿にはならず、台頭し始めた新政党に若者を中心とした支持が集まりました。（生活者ネットワークも都議選では大変苦戦をいたしました。）

今後の政治の動きから目が離せませんが、過半数割れの自・公は野党の提案も受け入れざるを得ず、政策課題ことの攻防が「見える化」されるのは良いことです。

価値観が多様な時代に、掲げる政策の方向性が異なるのですから、野党が「一丸となってまとまる」という事は今後も後にもないでしょう。ですから、課題ごとに一致点を見出して行く手法を野党は確立していかなければなりません。

多くの先進国が多様性と集団的指導体制を模索している現在、他国のチャレンジも参考にして「多様性へのレジリエンス」を身につけて行くべきだと考えます。

※レジリエンスとは、困難やストレスに直面した時に、それを乗り越えて回復する力

また、急激な変化は「排外主義」の引き金になってしまいがちだということも各国で証明されています。変化はゆとりと、民主主義を失わないように進めて行くべきです。

生活者ネットワークは結成当時から政策に対し「是々非々」で臨んできました。その経験を活かし、「多様性を認め合う」社会づくりにも今後取り組んでいきます。

今年も実施しました！水辺の調査

2025年の水辺の調査は、参加者の希望により「城山公園」となりました。7月21日午前、「稲城トコロジストの会」の箱田敦只さんから公園の鳥や昆虫、生き物や植物などのお話を伺いながら散策をし、公園内の通称「オタマケ池」と噴水のある「水の広場」までを観察、簡易キットを用いて子どもたちと一緒に水質調査をしました。



蜘蛛の観察中

結果は2箇所とも綺麗な水と言えるものでした。

「オタマケ池」の水は「雨水」が流れ込んで池に溜まったもの、「水の広場」の噴水は水道水が使用されています。この日は「オタマケ池」の水量も適度に保たれており、アメンボやトンボ、蝶などたくさんの昆虫や野鳥、蝉の声も聞かれました。城山公園は稲城のオアシスですね！

村上洋子 と おしゃべりタイム

日時:8月2日(土) 10:30~12:00

会場:稲城ネット事務所 (稲城駅近く、百村 1608-3 サンコーポ 202)

Google meet 併用 meet.google.com/emp-ujvj-edg

6月議会の報告も致します。 どうぞご参加ください。



母は、やはり日本人の男性と「再婚」するよう周りに何回も勧められたのだそうですが、その時、山形の実家に出した手紙が、先に帰国した父のもとに届き、お互いに生きていることが確認できたため「再婚話」はきっぱりと断ることができたのだそう。

そして、7年間母を待ち1953年に舞鶴に迎えに来た父と故郷の山形県に戻り、今度は農家の嫁の苦労も味わいながら、田畑を分けてもらい分家として独立した父と働いて私と弟を育ててくれました。

姉妹は姫路と山形で、お互いに子どもを育てることに精一杯、せいぜい手紙

母と叔母の7年間の従軍の話は詳しく聞いたのは、2人が帰国してから20年以上経ってからです。

叔母は従軍していた時に、同じく徴用されていた姫路出身の叔父と結婚し1952年には満州で長女が生まれ、翌年に夫の故郷の姫路に引き揚げました。そのあと2人の男の子も生まれて、3人の子どもたちを育てるために働きづめでした。

戦争と平和の記憶 ⑧



のやり取りをするだけで、お互いの子どもが東京で大学生になるまで、会って話す余裕はなく、あっという間に20年は過ぎていきます。

従妹のうち2人が東京の大学に進学し、そのアパートを足がかりにして私は大学の入学試験を受けました。そして、私も大学生になると東京の子どもたちのアパートで二人はやっぱり頻りに会えるようになったのです。

東北新幹線も延伸し、「宅急便」が普及し始めた昭和48年から53年ころの話です。

私が上京した時、布団や身の回りの荷物は国鉄の切符と一緒に「チッキ」という「手荷物券」で駅留め、上野駅から本郷の山形県人会の女子寮までタクシーで運びました。

頻りに上京するようになった母は満州時代の看護婦仲間と連絡を取ったり、お世話になった医師の夫妻のもとを訪ねたりしました。

そして、ある日私の狭いアパートに、当時の従軍看護婦の仲間3人がやってきて、母と叔母と5人で満州時代の思い出話を一晩中語り明かしたのです。

(次回に続く)

村上洋子 いきいきレポート



2025 年 6月議会 村上洋子の一般質問

6月議会の一般質問は、「香害」に困っているというご意見を頂き、市民のみならずと一様に質問内容を考え、調査をして臨みました。

(調査結果は裏面をご覧ください)

化学物質過敏症や香害に関する啓発や予防の施策について

化学物質過敏症は症状などの個人差が大きく、理解されにくい面もありますが、日々の生活に支障をきたすほど困っている方も多いのが実情です。

膨大な化学物質に対する国や行政による把握や規制、対策などはなかなか進まず、困っている人が自ら対策をするしかない状況です。周りの人に協力を求めても理解されないこともあり、大変困っている方もいます。

化学物質過敏症や香害等について、市民への啓発や予防的な施策を積極的に、市民の深刻な悩みに寄り添い、生活の質と健康を守るための取り組みが必要として質問をしたところ、周知啓発について検討するとの回答を得ました。

(問)化学物質過敏症の啓発や相談に関する市の認識は？稲城市こども計画のシックハウス対策は？

(答)相談は寄せられていないが、相談等が寄せられた場合は、個々の内容に応じ対応していくべきと認識している。稲城市こども計画のシックハウス対策は厚生労働省の指針値やそれに基づく文部科学省の基準に基づき、子育て支援設備の整備の中で、材料を選んだり、換気



人工芝のマイクロプラスチック流出削減対策について

を適切に行うなどのシックハウス対策を行うこと。

(問)国においては「香害」の啓発のためのポスターを5省庁連携で作成しているが、市は承知をしているか、また、周知啓発についての認識は？

(答)国で作成した香害のポスターについては承知している。周知啓発については、健康被害の可能性も鑑み、今後検討していく。

(問)都内で化学物質過敏症や香害に関する周知・啓発活動を行っているのは42自治体。市のウェブサイトに、健康面も含め化学物質過敏症や香害に関する啓発のためのページを作成する事について市の考えは？

(答)化学物質過敏症や香害に関する啓発のための固有のページを市ウェブサイトを作成する予定はないが、市ウェブサイトを含め、周知方法については検討していく。



人工芝は手軽で使い易いことから様々な場所で使用されていますが、マイクロプラスチックとなつて環境に排出されることが懸念されます。近年の調査によると、複数の調査結果から河川でのマイクロプラスチックは人工芝からの流出が多いと推測され、10%から多い地点では50%を占める場所もあるとのことでした。

人工芝に使用されるプラスチックにはPFAS等有害化学物質が使用されているものもあり、市においても調査と流出削減のための取り組みが必要と質問し次の様な回答を得ました。

(答)現在、稲城長峰ヴェルディフィールドとテニスコート4ヶ所、計5ヶ所で人工芝を使用している。流出調査は行っていないが、稲城長峰ヴェルディフィールドのサッカー場及びフットサル場では、人工芝のメンテナンス時に専用機材を使用してパイ

■市長提出議案

第一子の保育料無償化のための条例改正や消防デジタル無線設備の買入れ等を含む13議案について全て全員一致で可決となりました。

■補正予算

- 第一子の保育料無償化の実施は9月から、市ウェブサイトなどで周知。対象は認可保育所、認定こども園、家庭的保育事業（認証保育所、企業主導型保育事業は対象としない）対象者には9月に発送する「子どものための教育保育給付利用者負担額決定通知書」で0円となることをお知らせする。
(0歳児は給食費も保育料に含むので無償となる)
財源は全額東京都補助金 1億7730万円
- 稲城第三小学校建替えに関する債務負担行為を労務単価の高騰により再設定
校舎 44億4400万円→45億2100万円
学童クラブ部分 1億4300万円→1億5000万円
- 定額減税不足額給付金 4億7178万2千円

給食の飲み残り牛乳の処分について

ル片を吸引し回収、テニスコートは目砂を適正に保つためのコートブラシかけを利用者の協力も得て行っている。今後は、第三次稲城市環境基本計画に基づき、マイクロプラスチックによる海洋汚染が生じないよう流出防止を進めていく。

稲城市の給食の牛乳は質の良い牛乳ですが、飲み残しの残乳が発生しています。食育とフードロスの削減の観点から、また、水環境の保全の点からも、残乳を減らす取り組みが必要と質問し次の様な回答を得ました。

(答)残乳の調査は年2回程度行っている。令和7年5月の調査では1日あたりの平均供給本数8128本に対し未開封688本（令和6年は8127本に対し807本）で各学校の配膳室の排水溝に廃棄している。カルシウム摂取等の食育を行い飲み残り牛乳を削減した。

稲城市の提供している牛乳はパステライズド牛乳で大変質がよく、牛の餌も非遺伝子組み換え、生産者と消費者が努力して維持しています。食育の内容にそれらの事も含めていくこと、廃棄する牛乳を減らし環境に負荷をかけない方法を、子どもたちと一緒に考えて行くことを提案しました。

(※市販の9割以上を占める120度2秒のような超高温殺菌牛乳に比べ、稲城市の給食のパステライズド牛乳は72℃15秒殺菌で風味や栄養を損なわない。原乳の質が良いことが条件となるため他の低温殺菌牛乳と合わせても生産はわずかで貴重。呼び名はパスツールに由来する)

また、乳糖不耐症などアレルギー以外の理由でも学校と相談の上認められれば牛乳の飲用を辞退することが出来るが、そのことについて児童・生徒や保護者にわかりやすく伝えるよう求めました。